

9月田原市議会傍聴記

①

地方政治クリエイト 伊藤 秀昭

■長寿命化

赤尾昌昭氏(田原新政会)は高度成長期に整備された公共施設、特に維持継続していかねばならない橋梁(きょうりょう)、公共下水道などの長寿命化の取り組みについて質問した。

橋梁と言っても国・県管理の橋梁から市管理の橋梁までさまざまであり、それ

らの寿命化計画、健全度の把握状況、その対策を順に聞き、

下水にしても排水路、排水施設にまで広がり、さらに津波・漫水対策となると現状とその取り組みだけで質問が終わってしまっただけであった。

田原市議会の傍聴

に来て思うことだが、行政は現状の分析、課題、施策・目標、結果・問題点とP

属)は構想発表から5年が経過した「田原市バイオマスタウン構想」の事業実現化に向けた現況と課題について取り上げ

た。杉浦氏が質問の中

産からのふん尿について高品位の堆肥作りを進め、そのエネルギーを施設園芸の温室暖房などに活用する畜産バイオマスはエネルギーの地産地消の面からも大

だ。DCAを回転させて政策展開しているのだから、現状の分析、

だった。

■市民満足度

大竹正章氏(田原新政会)は、二度の合併により、市民一人当たりの公共施設の保有面積が、同規模自治体の約2倍で

判断すべきではないかと問題提起した。アベノミクスで象徴されているように、経済成長一辺倒の社会の中で、田原市には先人の築いて

幸福を実感できるまちを総力戦で



きた歴史と豊かな風土があり、地域の中に埋め込まれているさまざまな文化がある。それらを守るためにコストがかかっても、みんなが幸福を

あることから「田原市の大きな行政課題である公共施設の統合や再配置の取り組みが、主に効率的な側面から判断する傾向にあるが、市民サービスのあり方や市民満足度の面から

実感できるまち」という田原市のまちづくり理念がぶれてはならない。

■シティセールス 田原市ではこの2年をかけて「田原市シティセールス推進計画」が策定されていることから、その考え方や課題について北野谷一樹氏(田原新政会)が質問した。

政策推進部長は「農業産出額はトッ

て、教育なども充実している。それでも田原市の認知度は低い」とした。

北野谷氏が指摘したように、シティセールスはすでにほとんどの自治体を取り組んでいることであり、大胆な発想でよほどの差別化がなされない地域間競争には勝てない。

これらの体制強化のために、市制10周年を機に二人副市長制に市長は言及したが、12月議会での議論に期待したい。

■バイオマス 杉浦文平氏(無所属)

田原市で盛んな畜

業者の実例から事業化を迫り、熱い議論

化を迫り、熱い議論

化を迫り、熱い議論

化を迫り、熱い議論

化を迫り、熱い議論